

企業経営に不可欠な事業継続管理

一般財団法人 DRI ジャパン
理事長 長瀬貫隆

事業継続管理はなぜ必要か

事業継続管理 (Business Continuity Management、以下 BCM) の目的は、自然災害・人災等により企業の事業が中断した後、必須事業を目標とする時間内に許容できる最小のレベルで復旧し、あるいは継続し、生き残り (サバイバル) を図ることにある。



ファーストインターステートビル火災 (1988年5月4日)

災害時には、まず人命を守り、危機に対する混乱を最小にすることが必要だ。効果的な意思決定を行い、資産、収入、顧客の喪失を最小限に抑える。その上で事業をタイムリーに復旧し、公的なイメージや評判を維持、法・規制要件を満たし、組織のサバイバルを確かなものにしなければならない。

BCM が生まれたのは、1988年5月4日に発生した米国カリフォルニア州にあるファーストインターステートバンクの高層ビル (62階建て) 火災がきっかけである (左写真)。5階分が消失し銀行のオペレーションの全てがストップした。しかしこの銀行は火事のあったビルから少し離れたところにバックアップセンターを準備していたことから、そこへ銀行の重要なディーリング業務を移し翌日から業務を再開できた。

このニュースが全世界に知れ渡ったことで、同行は世間の評判を高めるとともに、預金者が増え業界でも優位な地位を築くことができた。事業継続計画 (BCP) の大切さが世界に示されることになった。

危機管理を放置してきた戦後日本

自然災害や人災等の事象が事業に与える影響は計り知れないものがあり、常に災害に対して「備える」ことが大切である。2012年2月に掲載